

SSH第1回特別講義

令和2年6月8日

本日、今年度最初のSSH特別講義を実施しました。

今回の講義の対象は、総合理学科2年生全員です。総合理学科では、2年生の1年間をかけて課題研究に取り組みます。本格的な実験・観察等の研究活動に入る前に、研究者として気をつけなければならない心構えを講義していただいたのが今回の特別講義です。

(講師紹介)

お名前：陳 友晴 先生

ご所属：京都大学大学院エネルギー科学研究科

ご専門：エネルギー応用科学専攻

本校OB41回生。最近は毎年、第1回のSSH特別講義をお願いしています。また、本校SSH運営指導委員も長くお務めいただいております。ご多忙の中、何度も本校に足をお運びいただいております。



(講義から)

○「研究とはどういうこと？」

「研究」とは、「未知」を実験などの手法を用いて明らか(「既知」)にしていくことだ。「既知」の幅が広いほど、「未知」を解き明かすチャンスが大きくなる。

○「安全について」

「研究」とは、「未知」=新しいものを作ること、新しいことをするという事。「実験」は多くのことに気を配るということ。

「不安全状態と不安全な行動の接触」という条件がそろえば、簡単に重大な事故が起ってしまう。



今回のSSH特別講義は、対象者限定でしたが、今後は放課後等の時間を使って、普通科生徒も含め希望者が受講できる講義も実施する予定です。「SSH通信」等で情報発信しますので、どうぞお楽しみにしてください。